

36-2 有明海の過去25年間における海域環境の変動特性

| | | |
|-----------------|-----|-------|
| 沿岸域環境科学教育研究センター | 教授 | 滝川 清 |
| 環境システム工学科 | 助手 | 田中 健路 |
| 技術部環境建設技術系 | 技術官 | 外村 隆臣 |
| (株)jimoss | | 西岡 律恵 |
| 独立総合研究所 | | 青山 千春 |

本研究では、環境悪化の悪循環に陥っていると懸念される有明海の環境変化の要因分析を行うにあたり、水質特性や底質特性、気象などの過去25年間のデータを用いて整理と解析を行った。その結果、水質環境の変動特性により5つの海域に分類でき、以前より湾奥では夏季に密度成層が形成され、海底面近傍では貧酸素化現象が起こっていたこと、海域全体の窒素循環において硝化能力が低下していること等が明らかとなった。また、ノリの色落ちが顕著であった2000年には、春夏季の高日射と秋冬季の高雲水量、および冬季の高水温と降水による栄養塩の流入等、気象要素の異変などが明らかとなった。

(第50回海岸工学論文集 pp.1001-1005, 2003年11月)